

Title	編集後記
Sub Title	
Author	清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichirō)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2020
Jtitle	Keio SFC journal Vol.19, No.2 (2019.) ,p.367- 367
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 多言語多文化共生社会に向けた挑戦
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-1902-0367

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

2020 年は SFC にとって 30 周年という節目の年である。ジャーナル 19 巻 2 号は、その節目を飾るに相応しい多言語多文化共生社会の特集号となった。表紙のデザインが象徴するように、SFC ではさまざまな言語が飛び交い、それは自然言語だけでなく、機械言語をも包摂する広がりを持っている。そこで培われた多様な経験と取り組みが本号に凝縮されている。

何より、創立直後からこの多言語主義の担い手であった平高史也先生の退職に合わせて刊行できることになったのは、喜ばしいことである。平素は優しく、研究には厳しく、言語を講じ、文化を論じ、音楽を語る先生の豊饒な知識と温和な人柄は、このキャンパスが多言語というカオスを開拓していくうえで大きな推進力であった。今号もその多様性ゆえに、すわ刊行見送りかと思われる難しさに直面したことがあったが、平高先生の想いを継ぐ杉原先生の機転と事務局である田坂さんの奮闘により、難を乗り越えることができた。執筆者のみなさまはもちろん、特にこのお二人にお礼を申し上げたい。

投稿論文も 6 本収録することができた。内部査読者 1 名、外部査読者 2 名による本誌の査読はなかなかハードであるが、うれしいことに近時は投稿が多くなり、今号も賑やかになった。30 周年の劈頭を飾るに相応しい一冊になったことを心から喜びたい。

4 月から本誌を発行する学会の名称が湘南藤沢学会から慶應 SFC 学会に改まる。SFC という挑戦の場から発信する媒体として、本誌もより一層励んでいきたい。

2020 年 2 月 12 日

清水 唯一朗

KEIO SFC JOURNAL 編集長